

## 神谷の

# お不動さんの白蛇

平成十三年三月五日号

神谷不動院は、本堂の東側が切り立った岩の壁になっていて、そこには斜めに入った割れ目があります。毎年お祭りの日になると、決まって割れ目の奥に光るものが見えるということです。

昔、神谷村の後藤某<sup>（なにかし）</sup>という家の土蔵の中に、いつからか白蛇がすみついていました。別に悪いことをするわけでもなかったため、長い間そのままにしていました。

あるとき、その家の主人が「おまえは世に

も珍しい白蛇だ。

おまえが本当に神の使いであるならば、この三宝の上に乗ってみよ」と言いました。するとどうでしょう。

その白蛇は静かに三宝<sup>（さんぼう）</sup>の上に乗って、いかにも「私は神の使いである」と

でもいうようにとぐろを巻きました。そこで主人は、白蛇を三宝に乗せたまま、不動院の本堂へ持って行って静かに置いて帰りました。

その後、この白蛇は、毎年お祭りの日になると、決まって岩の割れ目に姿をあらわすようになったということです。人々は、その蛇を見た人は近いうちにきつとよいことがあると言い、この白蛇がお不動さんの使いだと信



じています。

神谷不動院氏子総代

宮下<sup>ゆきお</sup>幸男さん（神谷）

毎年三月二十八日がお不動さんのお祭りです。二十七日の前夜祭では、本堂で子ども相撲大会が行われます。私も子どもころに、この相撲大会に参加しましたよ。

東名がなかったころは、お祭りの縁日は神谷神明宮の方から続いています。お不動さんの周りには馬場もあったそうですよ。東名ができてからは、このあたりもずいぶん変わりましたね。

平成六年の秋ごろ、本堂東側の岩の上に生えていたシイの太木が、台風突風で本堂に倒れかかったことがあります。倒れた太木をクレーンで引き上げたとき、根っこのあたりの土の中から小さな白蛇が出てきました。



▶ 白蛇があらわれると言われる岩の割れ目



◀ 神谷不動院（本堂）

お不動さんには、昔は蛇がいっぱいすみついていましたが、あのような白い蛇はだれも見ることがありませんでしたよ。